

# 令和2年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐阜農林高等学校

学校番号 15

## I 自己評価

1 学校教育目標	校訓「不撓不屈」の精神のもと、生徒一人一人の可能性を最大限に伸ばし「豊かな心をもつ自立した人間」を育て、進路実現を図る。	
2 評価する領域・分野	◇ 教育課程・学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・「本校の先生は、授業等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」に生徒の75%があてはまると回答し、昨年度の70%より増加した。また、学習指導全般において、生徒の「あてはまらない」という否定的回答が、昨年度より減少した。これは、ICTを活用した視覚的な分かりやすい授業、また成績不振の生徒に対する継続的な学習補充の成果と考えられる。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇基礎的基本的な知識及び技術を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育む。 ◇生徒の学習活動を様々な観点から、より適切に評価できるシステムをつくる。 ◇新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた年間行事計画を再編成し、授業日確保を図る。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・他分掌、教科、学科との連携を緊密にするとともに、授業研修会や教科研究会を推進する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 授業研究月間における研究授業の推進 (2) 教科や学科内の授業改善に向けた研究会	(1) 研究授業や研究会を生かした授業改善 (2) 学習活動における評価システムの作成	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
・各教科及び科目における基礎的基本的な知識及び技術を確実に習得させる授業の実施  ・課題発見及び解決に向けた主体的対話的で深い学びを取り入れた授業の実施	① 授業のねらい(レスランゲット)に合った授業ができたか。  ② 発言や発表の場面を取り入れ深い学びに繋がる授業ができたか。	Ⓐ B C D  A Ⓑ C D
11 成果・課題	<p>○新型コロナウイルス感染症による4月当初からの学校休業を背景に、ビデオ会議システム「Webex」によるオンライン学習支援が導入され、タブレット、書画カメラ、タッチペンを用いたICT授業をすべての教員が実施できた。</p> <p>○タブレットを用いた授業が、ほぼ毎日、毎時間、どこかの教室で実施され、ICTの活用が進んだ。また、生徒自身がタブレットを用いて、自らの学びを発表することができた。</p> <p>○火・木曜日を7限授業とした授業時間数の確保、また年間行事の見直しも進めることができた。</p> <p>▲新型コロナ感染症対策が進む一方で、発言や発表の場面を取り入れた従来の授業が展開しづらく、アクティブラーニングの在り方をタブレットを利用した学習ソフトの活用に移行していくことが今後の課題である。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>・学校教育目標及び各学科の目標を達成するため、学習指導要領改訂に伴う令和4年度教育課程の検討を推進する。</p> <p>・一人一台タブレットの有効利用や学習アプリ「メタモジ」を利用した授業開発等、ICTを活用した研究授業や授業研究会を推進する。</p> <p>・教務部内に情報関係業務を一括して内包することが決定したため、情報機器の管理から活用の窓口を一元化し、各種業務や授業活用の効率的運用を検討する。</p> <p>・各種行事や会議の在り方を検討し、業務の時間短縮(働き方改革)、ペーパーレス化、インフォメーションやオンラインを活用した有効な情報伝達を推進する。</p>	

## II 学校関係者評価

実施年月日:令和3年2月8日

### 【意見・要望・評価等】

- ・基本的な知識、技術の習得により、思考力、判断力、表現力が向上している。今後、タブレット等の有効活用を進めてほしい。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策を引き続き確実に進められたい。
- ・コロナ禍でオンライン授業やタブレットを用いた授業など、ICTの活用が進んだことはよかった。一方で、生徒が自ら学ぶ意欲を育てることが一層重要になってきている。
- ・生徒のアンケート結果から、先生方の指導方法についての満足度が高いと言える。